

小山市立博物館

# 博物館だより

2021  
3.15

# 72

## 第74回企画展

# 日光山と小山

### 4/24日[土]～6/20[日]

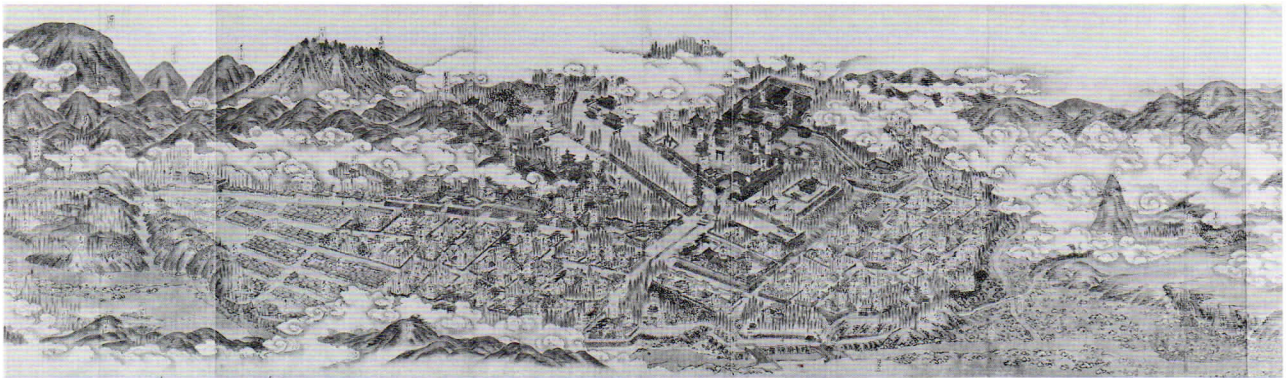
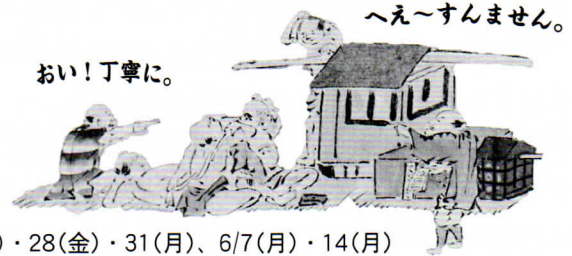
【休館日】4/26(月)・30(金)、5/6(木)・10(月)・17(月)・24(月)・28(金)・31(月)、6/7(月)・14(月)

【開館時間】9時～17時(入館は16時30分まで)

【入場料】大人200円(100円) 大高生100円(50円) 中学生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金 ※おやまミュージアム割引実施(車屋美術館入館券半券提示で団体料金適用)

※5/4[みどりの日]・5[こどもの日]・18[国際博物館の日]、6/12・13・15[県民の日関連]は入館無料



中央：日光東照宮蔵 日光道中絵図(日光山内) 右上：栃木県立博物館蔵 日光山神宮重修図(部分)



日光二荒山神社蔵  
六十間二方白総覆輪筋兜 伝小山朝政所用

太古の昔から小山の人々は、遠くそびえる男体山に崇敬の念を抱いてきました。

それが形として残り始めるのは中世以降で、

小山氏による奉納品など、その篤い信仰の証が今に残ります。

江戸時代以降は、将軍家の日光社参をはじめとした

多くの通行を支えた宿や村、日光山内の建築資材を運搬した河岸など、

市域全体が日光山の影響を受け続けました。

本展示会では小山と日光山が強い縁で結ばれてきた証を、

寺社奉納品や美術品、絵図、古文書等を通してご覧いただけます。

## 関連講座

申込みは4/9(金)から電話で、先着順。(TEL0285-45-5331)

- 記念講演会 5月22日(土)13:30～15:00 ※参加費無料  
「日光山と小山氏 ～日光山別当 隆宣・弁覚を中心に～」  
講師：千田孝明氏(日光市天台宗観音寺住職  
元栃木県立博物館技幹 兼 人文課長) 定員：30名
- 講 談 5月30日(日)13:30～14:30 演目：「左甚五郎」ほか  
講談師：神田真紅 定員：30名 ※参加費無料
- 日光彫り体験 6月13日(日)13:30～15:00 講師：小栗重子氏(日光木彫りの里工芸センター)  
材料費：1,500円 定員15名(小学5年生以上) ※申し込みは6月10日まで
- 展示古文書くずし字解説 (中級者向け) 5月8日(土)・5月27日(木)・6月10日(木)各13:30～15:00  
講師：当館学芸員 ※3回とも同内容、別途入館料が必要 定員各回：15名



## 郷土学習動画作成

当館の目玉でもある学校との連携事業。その中の1つ郷土学習が始まりました。今年は、学習指導要領改訂に合わせて、内容をリニューアルしてのスタートです。さらに、コロナ禍での学習ということで、学校と相談しながらクラス数や人数などに応じて、実施方法や時間も変えて行うことにしました。いろいろな工夫をしながら準備をして始まった郷土学習でしたが…。緊急事態宣言が栃木県にも発令されたことで、宣言が解除されるまでは延期をすることにしました。

そこで、万が一緊急事態宣言の延長等により、郷土学習が中止となってしまった場合にそなえ、動画を準備することにしました。内容は、基本的には学校で実施している郷土学習と同様で、学芸員が道具について解説をしているところを撮影します。さらに、動画だからこそできるものとして、釜でご飯を炊く様子や、洗濯板で洗濯をする様子などを撮影しました。編集によって、キャプションを入れたり、話している内容の要点を文字で入れたりすることで、より分かりやすいように工夫をしました。

実際に目の前で見て、本物に触れることはできなくても、子どもたちのためにできることはないか、そんな思いから始まった郷土学習動画の作成でした。こんなときだからこそ、博物館としてできることをこれからも実践していきたいと思います。

## 発明のおはなし その6「ボランティア発明」

人類の夢を実現し、その発展にとってかけがえのない創造力の成果が発明です。現在、全国に200ヶ所以上の発明クラブがありますが、栃木県では「小山市青少年発明クラブ」だけです。毎年行われる県児童生徒発明工夫展には、子どもたちのアイデアと指導者の支援によりたくさんの作品を出品することができ、優秀な成績をあげています。今回は金賞4点、銀賞6点、銅賞9点の19点が入賞しました。創立以来最高の入賞数です。金賞作品は科学技術館で行われる全国大会への出品資格が与えられました。また県内で3団体のみ選ばれる団体賞を10年連続受賞しました。さらに小山市の教育文化功労者表彰において優良団体賞をいただきました。「思いやりの心」や「ものを大切にする心」を胸に抱き、子どもたちは指導員の先生方と一緒に楽しく作品作りを行っています。

さて今回は「ボランティア発明」のお話。人のために役立つ発明をすることは、一種の「ボランティア活動」だと思いませんか。大金を寄付することはできなくても、ボランティア発明は人のために貢献できます。困っている人を発明で助けてあげるのです。それが小さなアイデアだとしても困っている人からすればその気持ちが嬉しいでしょう。例えば、「伝説のホテル」の鶴岡社長が考えた『W購入』のアイデアです。『W購入』とは、1冊のノートを購入すると、そこには2冊分のノート代金が含まれており、自分は1冊しか受け取れませんが、もう1冊は貧しい国の子どもに届くという購入システムです。「世界中の子どもたちと本当によい形につながりたい。そんな理想の一步を皆さんと踏み出したい」そんな社長の熱い思いが形になった購入システムです。

(写真は全国大会出品作品)





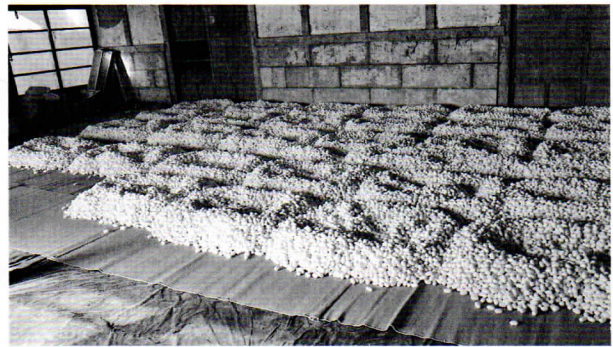
## 調査報告「小山における養蚕の現在～その1 出荷編」

繭の出荷日、養蚕農家では早朝から準備に追われます。10月のこの日、市内三拝川岸で養蚕を営む五十畑茂さんのお宅では、令和2年最後となる晩々秋蚕の繭の出荷準備が行われていました。上簇室の床一面に広げられた繭を、茂さんはくず繭をはじきながら箕ですくいとり、15キロほどが入る木綿の袋に詰めていきます。奥さんは、組合名や生産者などが書かれた紙票を入れて袋の口を縛り、台秤で重さを量って繭の生産量を確認します。夫婦二人で黙々と作業は進み、3時間ほどで25袋分の繭の出荷準備が完了しました。五十畑家では年4回蚕を飼育しており、1回につき400～500キロ、年間では1,800キロほどの繭を生産しています。繭はこの後、トラックの荷台に積み込み、午前8時を目安に出荷場に運び込みます。

小山では、10年ほど前の平成22年に17戸あった養蚕農家が、現在では5戸1団体の6つにまで減少しています。それでも、栃木県は群馬に継ぐ全国第2位の繭の生産県で、中でも小山市の繭生産量は県内一を誇っています(令和元年産)。

市内出井にある出荷場には、JAおやまに所属する生産者の繭が次々に運び込まれてきます。袋に入った繭はいったん選繭台の上に広げられ、汚れ繭、薄皮繭、玉繭(蚕2頭でつくられた繭)などのくず繭をはじく選繭作業を行いながら、繭の出来を確認します。その後、繭の重さを量り、500gあたりの繭の個数を調べ終わると、待機していた運輸会社のトラックに一括で載せられ、その日のうちに群馬県にある碓氷製糸工場へと運ばれていきます。現在、小山で生産された繭は、碓氷製糸工場へ、貴重な国産生糸へと生まれ変わっています。

\*参考文献 パンフレット「小山市の養蚕と本場結城紬」小山市  
第56回企画展図録『桑摘み唄と小山の養蚕』  
小山市立博物館



丹精込めて生産された繭



風袋に繭を詰める



選繭台でのくず繭の選別



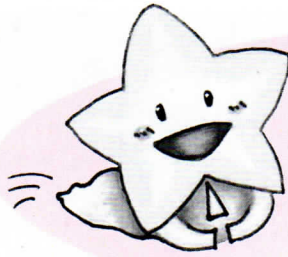
出荷された繭の重さを量る

### 令和3年度企画展展示予告

- 第74回企画展「日光山と小山」 4月24日(土)～ 6月20日(日)
- 栃木県立博物館移動博物館「とちぎの両生類～この子の名前はなんていうの?～」  
7月22日(木)～ 8月29日(日)
- 第75回企画展「歌人 田波御白」 10月30日(土)～ 12月12日(日)



## 博物館ボランティア・天文ボランティア募集中



ほっしー

### 博物館ボランティア

- ・毎月第1土曜日 定例勉強会
- ・予約団体への解説・案内
- ・毎週日曜日 常設展示解説
- ・博物館事業への参加や補助活動 等

### 天文ボランティア

- ・毎月第2土曜日の定例観望会や各団体から依頼を受けた観望会の補助活動

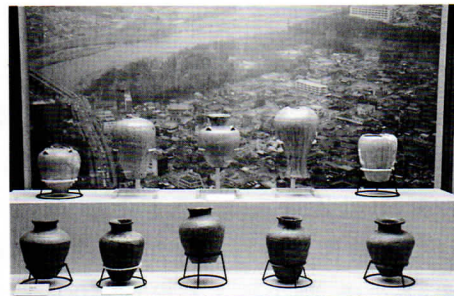
詳細は 小山市立博物館 0285-45-5331まで

## 博物館ボランティア・天文ボランティア募集中

## 収蔵資料の紹介

### 祇園城跡小山市民病院地点出土品（壺・甕・板碑） 栃木県指定文化財

祇園城跡の北端、旧小山市民病院の敷地では、建設工事に伴って昭和37・43・61年(1962・68・86)に発掘調査が行われ、壺・甕類と板碑、その他に石塔類やかわらけなど、中世の遺物が多量に発見されました。年代は鎌倉から室町時代にかけての、お墓に関連するものです。指定となった甕や壺は42点あり、蔵骨器として用いられたものがほとんどでした。板碑は中世の特徴的な石造物で、供養のために建立されたと考えられています。甕や壺は瀬戸をはじめとした東海産や、宋・元などで作製された舶載磁器があります。板碑は最大でも1mほどでさほど大きくはありませんが、計437点あり、1ヶ所の遺跡から発見された数としては、他に例を見ない多さです。また板碑は痕跡も含めると、金泥が施されたものが多く、この場所には金色に輝く板碑が林立する墓域があったことが想像されます。これらの遺物群は、この地を治めた中世小山氏の勢威を物語るだけでなく、当時の流通や葬送のありかたなど、当時の歴史・文化を知る上でも貴重です。



蔵骨器



板碑

## 寄贈者芳名

次の方から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- 中森一秀(小山市) 打ち刀1点・脇差し1点
- 水野辰雄(小山市) 香典帳3点
- 武井克己(小山市) 軍隊手帳1点
- 野口静男(小山市) 奉公袋1点・防塵眼鏡1点・伊勢神宮御遷宮式及御宝物之図1点
- 長 裕樹(埼玉県白岡市) 打ち刀3点・短刀2点・脇差し1点・拵2点

発行年月日 令和3年3月15日

発行 小山市立博物館 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)

〒329-0214栃木県小山市乙女1-31-7

電話 (0285)45-5331 FAX (0285)45-5247

H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/site/hakubutukan/>

印刷 日栄印刷有限公司

